

## 中南米カリブ諸国の行政官らが清掃現場を視察

24日、エクアドルやコスタリカなど中南米カリブ諸国7カ国の中央政府や地方自治体の廃棄物処理担当者が、廃棄物管理研修の一環で、ごみ収集現場や杉並清掃工場など、区の清掃現場を視察しました。

中南米カリブ諸国では、首都への過剰な人口集中により、都市廃棄物や産業廃棄物を中心とした環境汚染が大きな社会問題となっています。

今回の廃棄物管理研修は、環境省協力の下、独立行政法人国際協力機構（JICA）が実施しているもので、5月21日～6月27日の1カ月余りで中南米カリブ諸国7カ国の中央政府や地方自治体で廃棄物処理を担当する技官や行政官ら8名（コロンビア、コスタリカ、ドミニカ共和国、エクアドル、グアテマラ、ホンジュラス、ペルー）が、地方自治体の都市廃棄物の管理行政や3R政策、住民啓発活動の推進等を学びます。

この研修の一環で、区民、事業者の清掃事業に対する理解と行動により、平成23年度から8年連続区民一人1日当たりのごみ排出量が23区最少で、さらに最新の設備を持つ杉並清掃工場がある杉並区で視察が行われました。

24日、一行は高円寺南4丁目の道路沿いの集積所で、清掃車に可燃ごみを収集する様子をスマートフォンのビデオに収めたり、区担当者に分別の種類やごみ収集車の収集ルートなどを質問したりしました。その後、高円寺車庫会議室に戻り、ごみの分別方法や区民への普及啓発活動など、区の清掃事業を熱心に聞いていました。

今回の研修参加者の一人、ホンジュラスオコテペケ県サン・フランシスコ・デル・バジェ市役所環境ユニット・マネージャーのエドゥイン・モラン・エンリケさんは、「区民がごみの分別を当たり前に行っていることに驚いた。杉並区のようにごみ収集カレンダーに分別方法などを記載し、分別を徹底したい。」と帰国後の意気込みを語りました。



### 【問い合わせ先】

杉並清掃事務所方南支所 電話 3323-4571（直通）  
総務部広報課 電話 3312-2111（代表）